

距離感

鄭 卓

教育学部 交換留学生 中国

国によっていろいろなことが違うというのは当たり前だと思う。歴史も違うし、気候も違うし、地形も違うし、食文化や生活の習慣も違う。中国と日本は地理的に近いが、いろいろなことで文化的摩擦が生じる。

和歌山にきたばかりの私にとって、最も印象的なことは距離感である。辞書を見ると距離感とは「へだたりがあると思う気持ち」であると書いてある。無論、中国人の間にも距離感はある。しかし、日本人が理解する距離感とは、いったいどのくらいなのか分からない。辞書にはそのようなことは書いていない。多分距離の程度や、距離感を表す形式、距離感に重ねた意味合いが、国によって違うのだと思う。「なんでそうなるの」と聞くと、多分さまざま答えが出てくるだろう。

距離感を表す典型的な言葉は「ちょっと」である。「ちょっと」という言葉は日本人の日常会話のなかでよく出てくる。実は「ちょっと」はいろんな意味が含まれている。場合によって、「ちょっと」という言葉が相手に伝わる気持ちも違う。

都合が悪い時は「明日はちょっと」、誘われて行きたくない時は「それはちょっと」、他人や物を評価するときも「何々はちょっと」という答えでも大丈夫である。中国人の場合は、いつも「ちょっと、ちょっと」と返事されたら、きっといらいらしてしまうだろうと思う。いったい何を考えているのかと悩んでしまう可能性もある。しかし、日本人は、相手が「ちょっと」を言った場合、それ以上聞かない。私は、それは日本人の優しさだと思う。

中国で日本語の授業を受けたとき、先生が「ちょっと」についていろいろ教えてくれた。その時は信じられなかったが今はわかる。

ある日、日本人と公園に行く途中で、大阪のことについて話していた。

「和歌山の方が静かですね、大阪は賑やかですが人がいっぱい、ちょっと…」と私が言うと、「ああ、そう。」相手はすごく優しく笑って返事した。「ええ、本当に何も聞かないの。何故大阪があまり好きではないのかとか聞かないの」と心の中でそう思っていた。そう思っていたとしても、この話題はもうここまでだ。

しかし、その方がいい場合もある。本当に言いたくない時はそうしてくれると、この人は優しいなあと思うはずだ。ずっと問い詰められたら、苦しいかもしれないと思う。だから、「ちょっと」という言葉によって、日本人の人間関係の微妙な距離感を実際に理解できるだろう。

そして、挨拶もそうだ。挨拶は日本社会で欠かせないことである。人間関係を維持するためだけではなく、礼儀としても、距離感を保つことから必要だとそう思っている。

「おはようございます」や「こんばんは」や「こんにちは」はもちろん、仕事が終わったら、「失礼します」や「お疲れ様でした」がある。

日本人は挨拶を大切に思う。しかし、ただ礼儀として、慣例として行われているの

かもしれない。仕事のあとは「お疲れ様でした」を言わなければならない。疲れていても疲れていなくても。しかし、中国人の場合は何も言わないままで帰る。多分同僚だから、余計なことは言わなくてもいいと思うからだろう。私はまだ学生なので、会社の場合はよくわからないが、学校の場合は、友達は「お疲れ様でした」とは言わない。言うと、疎遠或いは冷たい気持ちが出てくると思う。たぶん、日本人の場合は、そういう形式を変えたくないのかもしれない。ただ礼儀正しくしたいだけなのかもしれない。

ここで、もうひとつ、距離感を感じたことを思い出した。初めて日本人と一緒に授業を受けたとき、何もわからないので困っていた。だが、隣に座った日本人の女の子が助けてくれた。書類の印刷もしてくれた。本当に感動したので自己紹介をした。しかし、彼女はただ「あ、そうですか」と返事しただけだった。悲しくなってしまった。「何で名前を教えてください」と思った。今でもわからない。

しかし、外国人にとってわからないことがあるからこそ日本の文化なのだ。距離感というものは外国人の私にとって難しいですが、魅力に満ちた日本文化の一部だと思う。



距离感

中国 交换留学生 郑 卓

不同的国家自然在很多方面都存在着很大的差异。所经历的历史有多不同，国家所在的地理地形也有所差异，气候，饮食和生活也大不相同。中国和日本虽然互为邻国，但在文化上仍有很大的不同。

对于刚到和歌山的我来说，最让人在意的便是距离感。我在日语电子词典里查了“距离感”这个单词。词典里的解释，距离感就是人与人之间存在着隔阂。但是，日本人所理解的距离感到底是怎样的距离感呢。距离到底是哪种程度的距离呢。词典没有帮我解决这个问题。也许，就连距离的程度，表达距离感的方式和距离感所要传达的意思也因国家文化的不同而有所差异。到底为什么会这样呢，也许有很多不同的答案吧。

我认为日本人想要传达距离感的最典型的的一个单词便是“ちょっと”。这个单词经常出现在日本人的日常对话中。虽然是这么一个简单的单词，但它能表达许多意思。比如当你时间上不方便的时候，你会说“明日はちょっと”；当你被邀请去参加某个活动但并不想参加的时候，你会说“それはちょっと”；当你评价某些人或事的时候，你说“何何がちょっと”也没关系。对于中国人来说，如果一直被这样回答，可能会认为自己被敷衍了事而生气。但在日本人看来，不追根究底是对对方的尊重和礼貌。在中国的时候，老师上课的时候讲过关于这个单词的意思，当时我还半信半疑，如今终于明白了。

又一次，我和日本支援留学生协会的阿姨一起在公园散步。我们谈起了大阪。我说，“和歌山の方が静かですね、大阪は賑やかで人がいっぱい、ちょっと”。阿姨笑着说，啊，这样啊。我想，原来真的什么都不会问啊。这个话题到这里也就结束了。但是，当一个人真的不想说什么的时候，如果被一直追问，应该会觉得很难受吧。因此，从这个单词中，我发现了日本人之间微妙的难以言喻的距离感。

另外，在日常生活中的打招呼也是。在日本社会中，彼此见面问候是必不可缺的。不仅是为了维持彼此之间的关系，也是体现礼节的一种方式。除了一些普通的问候，还有工作结束了之后的“您辛苦了”之类。

日本人非常重视问候。这是一种礼节的表现，但也许也是一种习惯的养成吧。就比如工作结束后一定要说“您辛苦了”，不管对方今天的工作是轻松还是繁重。但是，在中国，一般都不说这句话。可能同事之间，彼此相互了解，所以用不上说这些话。我还是学生，对于职场上事也不是十分了解。但在学校里，同学之间是很少说“你辛苦了”的。这样说，很容易给人疏远或者过于客气的感觉。也许，对于日本人来说，这只是代表一种友好的礼貌吧。

在此，又想起了一件让我感受到距离感的事。第一次和日本学生一起上课的时候，因为什么都不懂，上课的时候一直请教坐在我身边的日本女生。她教了我很多东西，还帮我复印了资料。我非常感动，很希望和她交朋友，于是做了自我介绍。但是她只是点了点头。看她没有做自我介绍的打算，我也只好去下一节课教室。直到今天我还是不明白，为什么她没有告诉我她的名字。

然而，文化是特殊的，存在着差异。虽然距离感对我而言是生疏的，但不可否认的是它也是日本文化的一部分。